

ワニのガルド

「ガルドとぼく」

3年 K・Mくん

「みなさんは、ワニが好きですか?」僕は、ワニが好きなので「ワニのガルド」という本を読みました。さいしょは表紙が女の子の絵だったので、男の子の僕が話の内容を理解できるかなと思いましたが、読みはじめると物語の内容がとて奥が深くてガルドの世界に引き込まれ一気に読んでしまいました。

この本は、さびしい子にしか見えないガルドというワニのお化けが、転校してきたばかりで友達ができないヒナちゃんとなぜかクラスの人気者のアヤカちゃんの前に現れガルドを通して仲良くなるというお話です。

ガルドを通して二人が仲良くなるっていくというのは、うれしかったのですが、最後はさびしくなくなった二人の前からガルドが消えてしまうのでせつない気持ちになりました。ヒナちゃんは、きつとガルドが見えなくなってしまつてからもヒナちゃんの心の中でガルドがずっとそばにいたのだと思います。僕は自分の命と同じくらい大切にしていたヒラタクワガタが死んでしまった時ものすごくさびしい気持ちになり落ち込みました。時間が経った今は、僕の心の中で生き続けていると思えるようになったのでヒナちゃんの気持ちに共感できます。

作者のおーなり由子さんは、自分と違う考えを持った人もいるということ伝えてたのだと思います。人間は複雑な感情を持った生き物です。それは、争いを巻き起こすようなこともあれば、人を幸せにするようなこともできる良い面も悪い面も持った生き物だと思えます。

僕は、違う意見にも耳をかたむけて、向き合うことが大切だと思うので、僕のまわりの人たちの意見が、自分と違っててもそついう考えもあるのだと考えられる人になりたいです。

最近よく耳にする多様性という言葉にもあるように、家族でも考えが違つことがあるのだから、みんな違ってもおかしいことではないし、みんなが安心してくらせる世の中になつてほしいと思いました。